

# 1

## 自然環境と私たちの暮らし

- 私たちの毎日の暮らしから出る排水は、川や海の自然環境に大きな影響を及ぼしています。
- 土地利用の変化による浸透能力の減少に加え、増加する集中豪雨により浸水の危険性が増しています。



上空から見た博多湾と福岡市

大量の汚水が発生する現代社会。豊かな暮らしを支えた"水"の行く先は？  
現代の私たちの暮らしは「水」を汚すことで支えられていると言っても過言ではありません。社会が快適で便利になるにしたがって、「水」はより大量に、複雑に汚れるようになりました。しかし私たちは直接使用する「きれいな水」の取得には熱心ですが、目の前から消えてしまう「使った水」の行く先には、あまり関心を寄せていないようにみえます。

### 九州の豊かな自然環境を守るには、 汚水をきれいにして河川に戻す必要があります。

河川や海などには本来この汚れを浄化する能力があります。しかし、汚れた水を流し続けられれば自然の回復力の限界を超えてしまい、環境が悪化して、結局私たちの暮らしに大きな影響をもたらします。

特に九州は豊かな自然に恵まれており、日本の食料供給地でもあります。この自然があって私たちの暮らしが成り立っていることを忘れずに、使った水はできるだけきれいにして川や海に帰すことが大切ではないでしょうか。

### 家庭の排水が自然環境に直結しています。

河川や海が汚れる主な原因のひとつは家庭から出る生活排水です。排水を処理する設備が十分でない現状では、家庭の排水が直接河川や海に流れ出ている地域も多く見られます。すでに排水処理施設の整備が完了している地域においても、家庭の排水が河川や海の自然環境に直結していることをしっかり認識し、自然はもちろんのこと、処理施設への負荷もできる限り少なくすることが必要ではないでしょうか。

### 浸水災害の少ないまちづくりには、雨水の浸透や貯留対策により 流域全体の流出量の抑制が必要です。

近年(10年ほど前より)は、局所的に多量の雨が降る集中豪雨が発生する傾向があります。また、都市化の進展等により以前は山林や田畑であった土地が宅地や駐車場、道路等になることによって、雨水の浸透が阻害され、以前より多量の雨水が直接地表を流下してしまう結果、これまでより浸水の危険性が増している地域がみられます。これからは、都市をつくる様々な人々と協力して雨水を貯めたり、浸透させることなど多様な方法と組み合わせて総合的な流出量の抑制も必要ではないでしょうか。



ボランティアによる河川清掃活動(佐賀市)



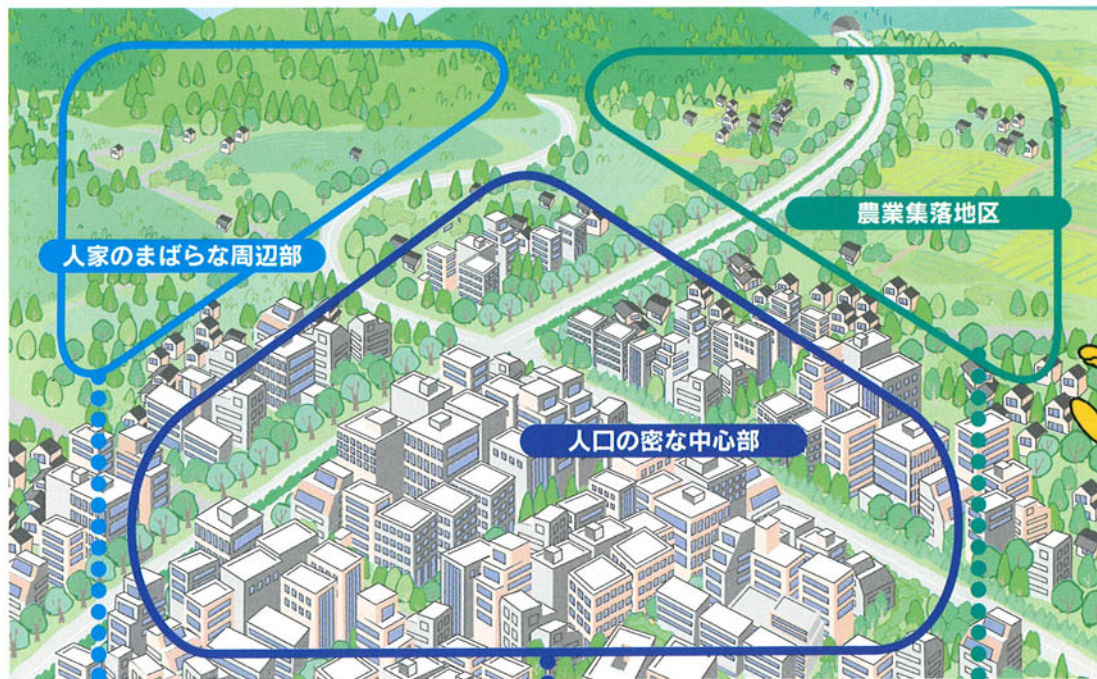
平成11年6月29日博多駅の浸水写真





"泉"の芽が出てきたぞ

■地域の様々な状況に合わせ、行政や住民の費用負担を考慮した最適な方法で整備がすすめられています。



たくさんある汚水処理手法の中から地域にあった手法を選んで、すみやかに整備していくことがポイントだね!!



●下水道について

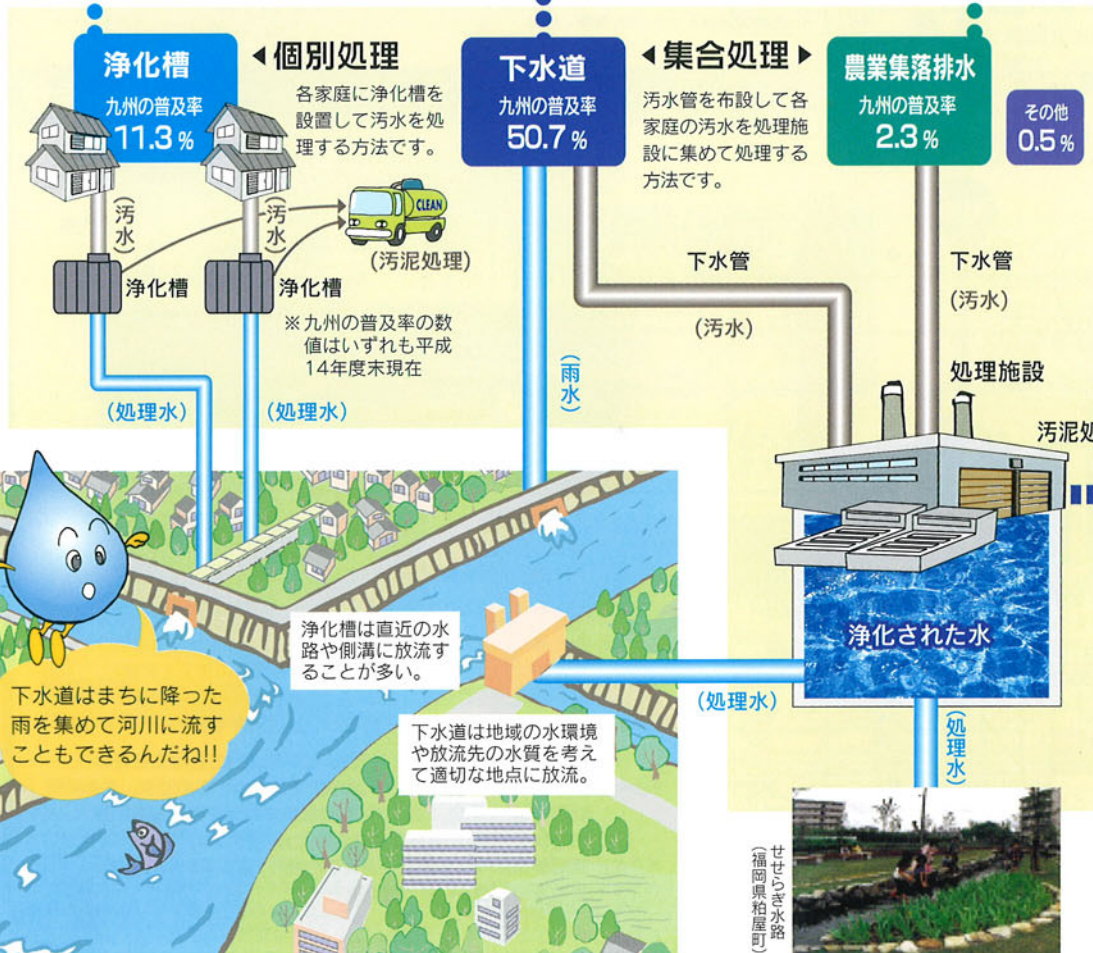
下水道は地方公共団体が事業主体となり整備を実施。一般的に下水道整備後3年以内の接続義務が発生します。

●浄化槽について

浄化槽の施工は短期間で完了する。大部分が個人設置型であり、適正な水質で放流するためには、個人がきちんと維持管理することが必要です。

●整備コストの比較

集合処理は一般的に人口密度が高い地域ほど一人当たりのコストは安くなります。一方、個別処理方法は人口密度の高低にかかわらず、一人当たりのコストはほぼ一定です。従って、人口密度が高い地域では集合処理を、低い地域では個別処理方式を採用することが経済的に有利となります。



●汚泥の有効利用

下水汚泥はセメント材料、緑農地利用、建設資材などとして有効利用されています。

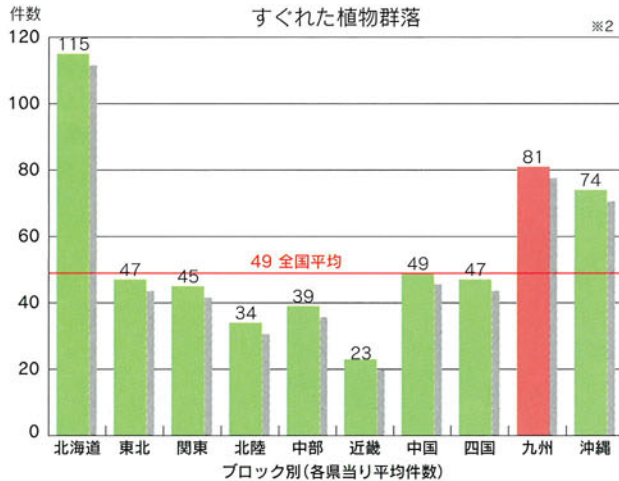
●処理水の再利用

処理水の一部は農業用水、公園の親水用水、水洗トイレなどに再利用されます。

# 「九州の豊かな自然」について

九州には全国的に見ても、特異性、希少性、原産性のある動・植物や、その地域にしかないような地形・地質・自然環境が数多く存在しており豊かな自然にめぐまれています。

## ■植物の状況 ※1



### 全国都道府県別件数ランキング

順位	都道府県	件数
1	大分県	258
2	鹿児島県	135
3	長野県	128
4	北海道	115
5	千葉県	99

(上位5都道府県)

### ブロック別総件数ランキング

順位	都道府県	件数
1	九州	567
2	関東	406
3	東北	282
4	中国	244
5	四国	188
6	近畿	163
7	中部	157
8	北海道	115
9	北陸	101
10	沖縄	74
合計		2,297

ミヤマキリシマ(大分県 九重連山)

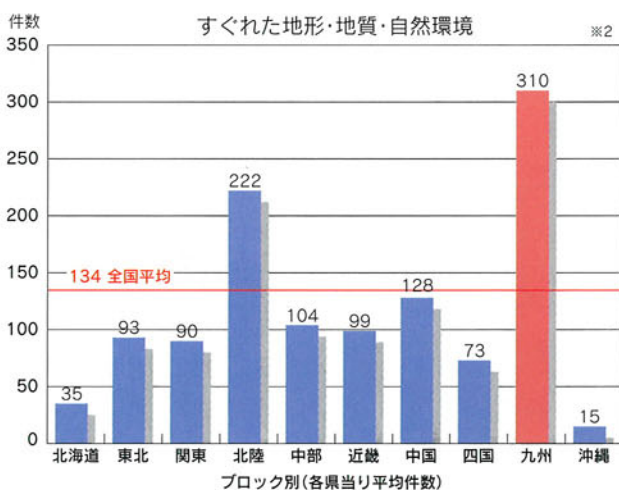


資料:第1回緑の国勢調査※4「すぐれた自然」の調査※5より

※1 貴重な植物の個体・群落の生育地、各種の群落がまとまっている地域、典型的な垂直分布等の調査。

※2 各ブロックの総件数を各ブロックの都道府県数で除し、ブロック別に各都道府県当りの平均件数を算出しグラフ化したものです。

## ■地形・地質・自然現象 ※3



### 全国都道府県別件数ランキング

順位	都道府県	件数
1	宮崎県	1274
2	富山県	454
3	鳥取県	395
4	長崎県	318
5	鹿児島県	262

(上位5都道府県)

### ブロック別総件数ランキング

順位	都道府県	件数
1	九州	2,171
2	関東	814
3	近畿	693
4	北陸	667
5	中国	639
6	東北	555
7	中部	415
8	四国	292
9	北海道	35
10	沖縄	15
合計		6,296

鬼の洗濯岩(宮崎県 日南海岸)



資料:第1回緑の国勢調査※4「すぐれた自然」の調査※5より

※3 すぐれた、または特異な地形、地質、自然現象の調査

※4 自然環境保全調査(「緑の国勢調査」)は、環境自然保護局が全国的な観点からわが国における自然環境の現況を把握し、自然環境保全の施策を推進するための基礎資料を整備するために昭和48年4月より実施してきた調査です。

※5 「すぐれた自然」調査は、特異性、希少性、原産性、歴史性等の観点より全国のすぐれた自然の確認を行ったものです。「植物」「野生動物」「地形・地質、自然現象」「海中自然環境」「歴史的自然環境」の項目を調査対象とし、各都道府県で専門学識経験者よりなる調査委員会を組織し、既存資料の収集、学術性等の評価を行なった調査です。